

ヨハネ・パウロ二世追悼メッセージ

『教皇様を偲びて』

マリア・ヨセフィナ 秋 丸 暢 子

二〇〇四年十月十日より十七日まで、メキシコのグアダハラハラ市で開催された第四十八回国際聖体大会に、公式巡礼団の一員として参加しました。

公式行事は、十月十三日より十七日まで行われ、聖体拝領、聖体行列、徹夜礼拝等で、聖体への信心を深める機会に恵まれました。

十月十七日、最後の日は、グアダハラ市のサッカー・スタジアムで、教皇様によるミサが行われる予定になっていましたが、ご健康上の理由で中止になりました。そして、ヴァチカンの教皇宮殿より、衛星中継によるご挨拶で、お声を出されるのもお苦しそうなお様子でした。ご公務を一生懸命に果たされておられるお姿を拝見して、涙が流れて着ました。

サッカー・スタジアムに集まった世界各国からの巡礼団が、国ご

とに紹介されました。日本からの巡礼団は僅か三十名でしたが、日の丸の旗を手に持ち、ジャパンと紹介された時に全員立ち上がり、旗をふりました。その時、私の顔がスクリーンに大きく写され、驚きと同時に、教皇様と直接お会い出来た様な感動を覚えました。

今年一月に、教皇様のご容態が良くないと情報があり、イタリアに行きました。一月十六日、サン・ピエトロ広場に到着した私は右手に見える要塞のような雰囲気のある簡素な教皇宮殿に目を向けました。毎週日曜日に教皇様が宮殿の四階の窓を開けて、世界中のカトリック教徒と対話をなさっておられた窓は、きつちりと閉ざされ全く内部を伺う事も出来ませんでした。而し、教皇様と同じヴァチカン市国にいる幸せを感じ、ご快復を祈りつつ帰国しました。

二〇〇五年四月二日、第二六四代教皇、ヨハネ・パウロ二世は、八十四歳で帰天なされました。つつしんでご冥福をお祈り申し上げます。

皆さまに見守られる中、娘の初聖体が無事に終えることが出来ました。家族一同感謝の気持ちでいっぱいです。これからも皆さまのご指導のほどよろしく願いいたします。
(浜)

初聖体の時は、娘も喜んでいましたが、それ以上に私もうれしかったです。これで娘もクリスチャンの仲間入りが出来たと思います。本当にありがとうございました。
(日置)

5月29日、信者の皆さまの祝福を受けて、娘が初聖体を受けることができました。生まれたばかりの時に受けた洗礼を、娘が覚えているはずもなく、娘とすれば、今回の初聖体が、神の祝福を始めて受けたこととなります。初聖体を受けた娘は、信仰宣言の時に、神父様から名前を呼ばれても、聞き取れぬ小さな声で返事をし、緊張していたことがよく分かりました。しかし、キリストの光を受ける頃には娘の緊張も解け、ミサが終わったときには、娘が少し成長したように感じられました。今回、ミサに出席された信者の皆さまの祝福の中で、初聖体を受けられた感動を忘れず、今後より一層、神さまの教えを学び、成長してもらいたいと思います。
(大竹)

